

# 琉球大学学術リポジトリ

## 与那国の在来馬

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者: 琉球大学農家政学部<br>公開日: 2011-07-15<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21209">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21209</a>                       |

# 与那国の在来馬

与那国島の情景は「牧歌的」である。それは島の人たちに与那国富士の愛称で親しまれている宇良部岳、海岸線まで水田や牧場となってゆるやかに流れる山麓の美、人なつっこい在来馬などの自然からくる印象である。野良や山作業の運搬役から婦女子や子供たちのお使いまで、在来馬は愛嬌をふりまきながら小走りに往來する。

写真は島のあちこちでひろったそのスナップ風景である。

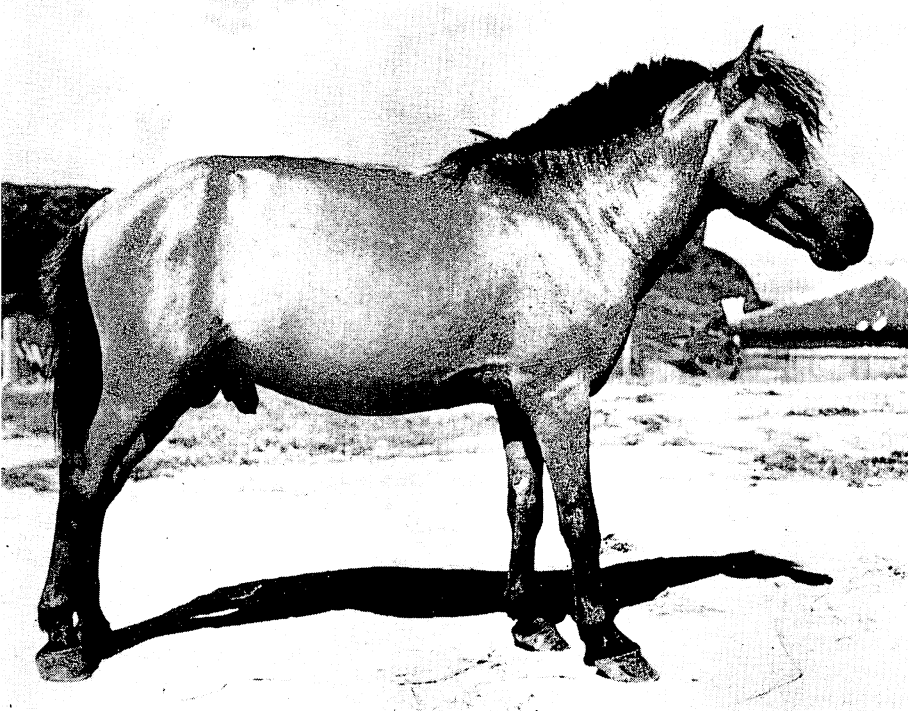
(古謝瑞幸)



▲海岸の断崖の上は涼しくて すてきないこの場所

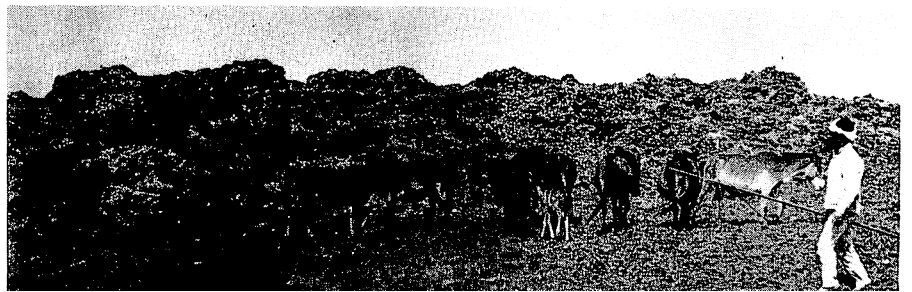


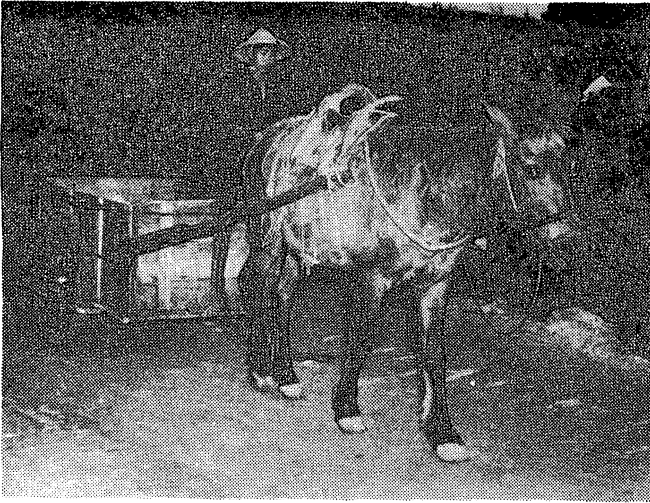
▲在来馬の大きな特徴は蹄が強いこと 蹄鉄など全く無用



◀ボクは在来馬の中ではハンサムボーイで通っている これならばどこへ行っても……

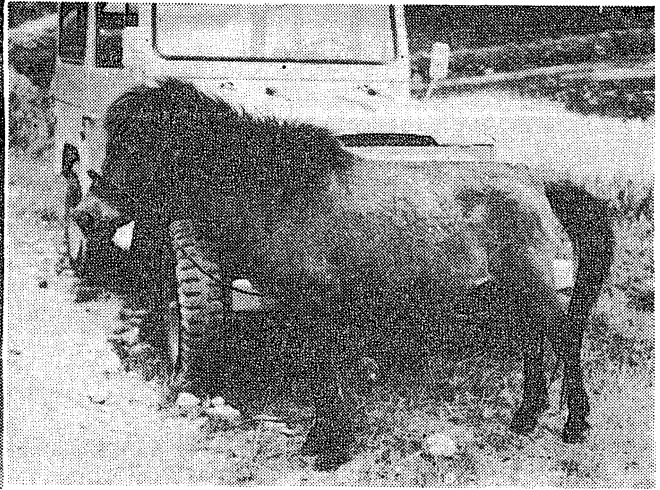
▼オスが夜逃げしたら決して女の城(放牧場)に不法侵入する 飼主はそれを逮捕するのにさんざんな苦勞をする





▲やっぱりボクにはリヤカーがぴったりするワイ

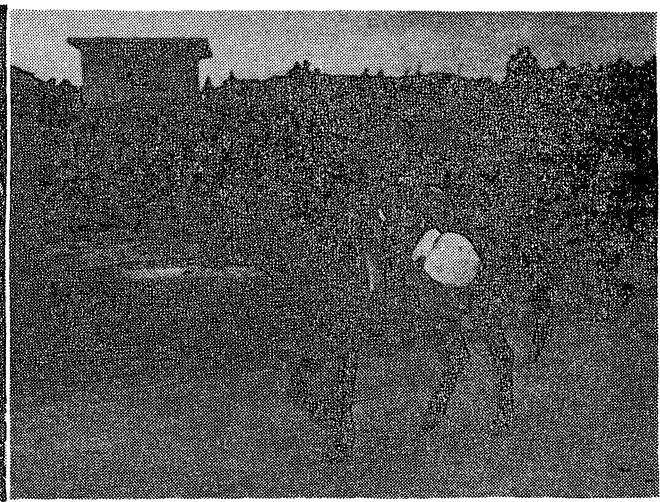
▼ボクは生来おとなしいというのでこの通りレディーたちからも人気がある



▲ボクは島中で最も小さいコビトならぬコウマ 体高105cmでジープの鼻と背くらべしたら負けちゃった 今年20才だが若い頃は 180kgの背荷は平気で運んだ



▼馬の移動まちりぢりでなく 必ず先頭のものについて一列縦体にかけてゆく



▲ボクのポーズは定評がありましてネ…… これから坊ちゃんと一緒にお母さんのお使いに行ってきまあす

▼さあ足も軽やかに家路だ 人間様もおくれぬようについてこい

